

派遣交換留学中の生活等に関する調査

国際センター

記入年月日：2019年7月18日

氏名	[REDACTED]		
所属	外国語学部 ([REDACTED]) 研究科	中国語学科・専攻	4年次
派遣先大学	華東師範大学		10ヶ月間

以下の項目に入力・選択をしてください。なお、この調査は個人情報（名前等）を削除した上で、これから留学する学生並びに留学を考えている学生に公開させていただきます。

I. 留学先での住居について

1	住居形態は 何でしたか？	<input checked="" type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input checked="" type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ([REDACTED])
2	住居形態の詳細を教えてください。	例) ルームメートの人数と国籍、部屋数、間取り (2LKD)、広さなど ([REDACTED] 滞在4か月後に学生寮から引っ越した)
3	入居時手続き	例: Housing Office でデポジットを払い、学生寮の受付で鍵を受け取る ([REDACTED] 現金で支払い。三か月分を一気に払わなければならない。)
4	費用 (月額)	4200 (元) (食費 食費含まない/月)
5	支払方法	現金 (例: 月ごとに現金で、クレジットカードなど)
6	住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 洗面所 <input type="checkbox"/> トイレ(共同) <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(個別) <input type="checkbox"/> シャワー(共同) <input checked="" type="checkbox"/> シャワー(個別) <input type="checkbox"/> 浴槽 <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> ジム <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯機 <input type="checkbox"/> 乾燥機 <input type="checkbox"/> その他 ([REDACTED])
7	住居選択方法	<input type="checkbox"/> 渡航前に申込 <input type="checkbox"/> 留学先大学の斡旋 <input checked="" type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者・新聞を通じて <input type="checkbox"/> その他 ([REDACTED])
8	周囲環境	例: 近隣のスーパーなどの大きさ、駅・バス停からのアクセス、など ([REDACTED] 駅から徒歩5分、学校の目の前)
9	アクセス	例: 大学からの距離・アクセス方法、駅・バス停からの距離・費用 ([REDACTED] 学校の目の前。)
10	留学中の住居に関して アドバイス	(今後留学をする学生に対して): ([REDACTED] 基本的に中国では現金は使わないのだが、家賃支払いは現金があるとよい。持って行ったクレジットカードが使えるか分からなかったりした経験あり。)
11	引越された方は引越し先の住居形態を記入してください。	<input type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input checked="" type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ([REDACTED])
12	詳細を教えてください	例) ルームメートの人数と国籍、部屋数、間取り (2LKD)、広さなど ([REDACTED] 友人の紹介)

II. 通信環境について（該当の項目を選択、または入力してください。）

1	日本キャリアの携帯電話	持参した
2	現地キャリアの携帯電話	現地でSIMカードを購入
3	現地携帯電話の取得手続きの方法	例：ショッピングモールの電気屋に行きSIMを購入 (学校側が全て手配してくれた。)
4	自宅のインターネット接続環境	有線（プロバイダは別途契約）
5	大学内インターネット接続環境	有線（大学または寮へのLAN接続）

III. 留学費用について

諸経費（1ヶ月の平均） ※現地通貨で記入。（ ）内に通貨単位を記入すること。		
1	宿舍費	4200 アパート (元) /月
2	食費	1000 (元) /月
3	交通費	50~100 (元) /月
4	通信費	100 (元) /月
5	娯楽費	600~1200 (元) /月
6	図書費	0 (通貨入力) /合計
7	学用品（教科書など）	800 (元) /合計
8	被服費	1000 (元) /合計
9	医療費	0 (元) /合計
10	雑費・その他	600~1200 (元) /合計
上記以外にかかった大きな金額の内訳（留学準備期間含む）※日本円または現地通貨で記入。		
11	出願料・宿舍デポジット	100 (元) /合計
12	ビザ申請関連費	300 (元) /合計
13	航空券代 (休暇時旅行費用は除く)	8万 (円) /往復
14	その他	(通貨入力) /合計
15	留学全日程に要した総額（概算）	100万 (円) /合計
お金の持って行き方		
16	<input checked="" type="checkbox"/> 現金（渡航時：8万円） <input checked="" type="checkbox"/> 国際キャッシュカード（銀行名：東京三菱UFJ） <input type="checkbox"/> 海外送金 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
17	現地で銀行口座開設	した
18	手続き方法・利点・欠点	学校が手配してくれた。SIMカード(電話番号)取得→銀行開設→ネットペイ登録。→現金をほとんど使わない生活
19	お金に関するアドバイス (今後留学をする学生に対して)	到着初日に寮費をまとめて4か月分現金で払うことを知らずに行ってしまった。それにATMの一日下せる金額が5000円までと決まっており、払い終わるのに一週間を要した。もしクレジットで払えるかどうかを事前に

	確認できる場合は必ず行うこと。それに応じて出国時にもっていく現金の額を決める。中国は現金をほとんど使わない生活だが、最初の月は手続きに何かとかかるので3万~5万円ほど持っていくと安心。
--	--

IV. 保険・医療について

1	海外旅行（留学）保険の種類（例：L2プラン）	華東師範大学でも保険を購入（10か月分で8000円）
2	留学中に病気・けが等をし、通院・薬の処方を受けましたか？	いいえ
3	（2で「はい」を選んだ場合のみ記入） 海外旅行（留学）保険の適用を受けましたか？	選択してください。
4	（3で「受けた」を選んだ場合のみ記入） どのような方法で適用を受けましたか？	選択してください。 その他（ ）
5	（4で「受けることができなかった」を選んだ場合のみ記入） 適応されなかった理由はなんですか？	
6	日本から持参した方が良かったと思う薬などはありますか？理由は何ですか？	

V. 持ち物について

1	日本から持っていったもの コンタクトと洗浄液←中国で買うのは少し怖かったため
2	現地で購入したもの 家具。アパート暮らしを始めてからインテリアを整えた。そうすることで気持ちよく生活することができた。
3	（自分は持っていかなかったが）日本から持っていったら便利だと思ったもの きちんと使えることを確認したクレジットカード。私は持って行ったクレジットカードが使いえなかったため、アパートの家賃を払うのに毎回苦労させられた。ちなみにのはじめの寮ではクレジットカードでの支払い自体受け付けていなかったため初日に16万円ほどの現金が必要となった。

VI. 留学先で困ったこと

たまに唐突に携帯やキャッシュカードが使いえなくなったとき、どこの誰に頼ればいいのか分からなかった。ほんの些細な小さなことでも、向こうではとてつもない壁に感じてしまいそうになる。
--

VII. その他、後続の学生へのアドバイス

何かトラブルが起きたとき、日本ではどうってこともないことがものすごく深刻に感じてしまうこともあるかと思います。それでも、学校の先生や、学校の対留学生の事務の方、クラスメート、たくさんの方に助けられました。誰かに頼ることに躊躇せず、何かあったらすぐ相談することです。必ず誰かが助けてくれます。また、逆にあなたも誰かの助けになることもあると思います。留学はワクワクと同時に不安もあることでしょう。それは、ほかの国の子も同じでした。少しの心の揺れは一般的なものだと思いますので、安心してください。

ご協力ありがとうございました。留学状況のより良い把握のため、**留学志望者の参考となる写真（大学・授業の様子、設備、街、宿舎などの写真）**を添付して提出してください。

神奈川県立大学派遣交換留学修了報告書

所 属	外国語学部	学 科	中国語学科	4 年次
氏 名				
派遣先大学 (国)	華東師範大学 (中国)			
所属プログラム・ 学部・研究科	国際漢語文化学院	履修言語	中国語	
留学期間	2018 年 9 月～2019 年 6 月			
報告書提出日	2019 年 7 月 18 日			

学修について

1.1. 学期区分

学期	授業期間	試験期間	履修登録するまでの過程
【記入例】 Fall Semester	9 月 21 日 ～1 月 21 日 (14 週)	1 月 24 日 ～2 月 1 日	英語力の結果、本科の授業履修が認められたので、教務課でシラバスを貰いオンラインで登録。オリエンテーション期間として最初の 1 週間は履修登録を加除できる。XX 先生に相談し、……
秋学期	9 月 24 日 ～1 月 11 日 (14 週)	1 月 8 日 ～1 月 9 日	到着後すぐに手続きとテストがあった。私は当初午前だけのプログラムに申し込まれていたのだが、午後の時間も学習にあてたいと思い、一学期につき 4000 元を追加で支払い午前午後もあるプログラムに変更。そのためきちんと履修し始めたのは、10 月に入ってからのことだった。
春学期	2 月 18 日 ～6 月 14 日 (14 週)	6 月 12 日 ～6 月 13 日	2 月のテストの結果、前学期よりも 4 クラスも上がった 3-1 クラスとなった。クラスが始まって一週間はお試し期間となり、クラスを自由に移動できるが、3-2 のスピーキングの先生が不評とうわさを聞いていたので、3-1 に残ることにした。

1.2. 履修科目・内容 (数字は半角で直接入力してください)

学期	履修科目名	合計時間	履修内容・授業での取り組み
----	-------	------	---------------

		(内訳)	※欄は自動で大きくなるので、十分に記入してください。
【記入例】 Fall Semester	International relations IIB	30 時間	講義が月曜日に 90 分、演習が木曜日に 90 分。内容としては講義は……。演習は……。中間試験・期末試験の勉強としては……。レポートは……。 合計時間の計算方法は[⑥] 【参考資料】授業時間数について]をご参照ください。
		1 (時間/回) × 3(回/週) × 10(週)	
秋学期 2-1	Listening course	42 時間	水曜日の午前に 2 コマの 90 分授業。リスニングということもあり、テキストに沿って CD を繰り返し聞き、問題を解くことが主だった。しかし、クラスの先生が雑談好きだったので毎回先生の気分によって異なるのだが、たいてい授業始まって 20 分、30 分は先生が毎回異なる話題について話していた。はじめは教科書の CD よりも早い先生の話は全く聞き取ることができなかったのだが、11 月にはいつの間にか聞けるようになっていた。
		1.5(時間/回) × 2 (回/週) × 14 (週)	
秋学期 2-1	Comprehensive course	168 時間	水曜以外の平日午前に 2 コマずつ、90 分授業。基本的にはテキスト一課につき長文が書かれていて、その中に出てくる単語、文法を覚えながら読み解いていく。そして中間期末とは別に、毎週金曜日には一週間にやった単元のテストがあり復習をしっかりとしなければならない環境がより語学向上につながったと思われる。
		1.5 (時間/回) × 8 (回/週) × 14 (週)	
秋学期 2-1	Speaking course	126 時間	水曜と金曜以外の平日午後 2 コマずつ、90 分授業。他の二つの授業に比べて自由度が高い授業となる。もちろんテキストに沿って進行はするのだが、その中に出てくる長文のテーマ、単語などからあらゆる異なる話題について、2~4 人組になって話し合い、結果をクラスや先生に発表しなければならない。また連休明けなどには、連休中に行った旅行やもしこのクラスの友人を自分の国に呼ぶならどんなプランを提供するかなどなど、パワーポイントを作成し発表しなければならない。これは秋学期春学期ともに、それぞれ三回ずつ行われた。
		1.5 (時間/回) × 6(回/週) × 14 (週)	
春学期 3-1	Chinese Comprehensive course	168 時間	授業ペースが前学期と比べ半分遅くなった。秋学期は一週間に二課終わらせ、毎週末のテストを行っていたのにも関わらず、今学期は一週間に一課分しか進まなかった。そこには前学期と比べ長文がより長くなり、少し難しくなったことにある。東先生は授業に演劇を取り入れるのが好きな先生だった。長文の中に出てくるものや人物になりきり、4、5 人のグループごとに発表するのだ。そこには課文のセリフや文章を生徒たちに覚えさせる狙いがあった。 また、外の中国人にインタビューをしに行く回が何度かあつ
		1.5 (時間/回) × 8 (回/週) × 14 (週)	

			た。これは秋学期にも行われた。春学期では、デリバリー産業が発達している上海ならではのデリバリー配達者を各自グループで見つけ五人ほどインタビューするもの。そしてもう一つは、アリババが経営するデリバリーシステムを取り入れた最新スーパーの利用者にニーズなどをインタビューするものだった。卒業論文でデリバリー産業やアリババについて書こうと思っているので、語学習得を除いても良い物となった。
春学期 3-1	Chinese Speaking Course	126 時間	周先生はクラスの生徒が発表する機会をたくさん作った。単語を読み意味を確認するときにもそれぞれの単語から話題を持ってきて、二人組 2 分の話し合いを設けたのち、何人かが簡単に自分のグループで出た意見を説明。その繰り返しである。また、ミニゲームを二日に一回くらいのペースで取り入れ、負けたチームは罰ゲームに歌を歌わなければならなかったため、生徒たちは意外にも必死で取り組んでいた。例えば、長い文章を一人ずつ伝言ゲームのように暗記していき、一番正確に覚えられたチームの勝利。テスト前の単語の復習では連想ゲーム法で、その単語をいかに分かりやすく回答者に伝えるかというゲームもあった。これはライティングのクラスのテスト前にも行われた。私たちのグループの罰ゲームで『アナと雪の女王』のそれぞれの母国バージョンで歌った時には、日本語と韓国語、インドネシア語があまりにも異なっていた様がとても面白かった。
		1.5 (時間/回) × 6(回/週) × 14 (週)	
春学期 3-1	Chinese Audio visual Oral course	42 時間	今回は前学期に行ったリスニングとは少し異なり、テキストごとに動画を一本見て、読み解くものだった。字幕もあるので一見、普通のリスニングよりも簡単に思われたが、出てくる単語や速さが一般的にネイティブのままなので難易度的には秋学期含めてもこの授業が一番高かったかと思われる。ただ使える応用単語として、リーディングやライティングよりも、よりネイティブに近いものだったので日常会話に使いやすい物を多く取り入れることができた。
		1.5 (時間/回) × 2 (回/週) × 14 (週)	

※表の行が足りない場合は、必要な数だけコピー&ペーストで増やしてください。

1.2 学修する上で心がけていたこと、予習復習の仕方について（授業全般を通して記入）

一番に心がけていたことは、自分が少しでも興味を持ったものをひたすら追求し続けることである。もちろん授業の復習をすることは当たり前で大前提にあるが、教科書の中の生きていない文だけでは中々気持ちがついてこない。そこで好きな俳優を見つけ、その人の出ているドラマ映画をひたすら見ることや、化粧品のレビューをしている動画配信者の動画を見るなど、どんな分野でもいい少しでも興味を持ったものであればそれは語学を習得するための義務から、日本で動画を見ていたころと変わらない趣味へと変わる。いかに苦しめず自分の好きにつなげていくかを第一に考えていた。

1.3 語学力について（留学前や留学当初に比べての成果、留学中の取り組みを、内容ごとに分けて記入）

来たばかりの九月の私の中国語レベルはまるで乳児だった。とはよくいろんな人に話している。今では冗談交じりにこの話を中国語で話せるようになったのだから、自分としては大きな進歩を遂げたと思う。九月、十月は全く話せず、聞けなかった。よく言う留学マジックなるものを感じるようになったのは11月半ばごろ。突然というよりは、いつの間にかという感覚に等しかった。また、そのころぐらいから一番親しくなるケニアの友人の存在はとても大きかった。彼女はその時すでに1年上海に住んでいて特にリスニングは私よりもはるかに上だった。学校外の時間を彼女と過ごす今日習った単語や文法を何度も使うようになりいつの間にか定着しているという具合に、語学はあくまでもコミュニケーションのツールとしてとらえることができた部分が進歩につながった。そして何よりも、片言でも大声で中国語を話すことの恥じらいと怖さがなくなったことが大きな成長だったと思う。

1.4 研究について（※大学院生のみ記入）

2. 留学の成果を振り返って

2.1. 学修の成果(学修内容と取り組みから得た成果を、内容ごとに分けて記入)

学修の中で気が付いたのは、日本人以外の他国生徒は母国語以外の言語を習得することに抵抗がないということだ。そしてその多くが、母国語とは別に英語をすでに取得していて第3カ国語目として中国語を学びに来ている者がほとんど。文法が似ているので有名な韓国人までも8割が英語取得者だった。もちろん留学しに来ているだけあってグローバルな人物が多いこともその理由だと思うが、今更英語英語と焦っている日本と世界との差を痛感させられた。そんな私が一年間の学修の中で身につけたことの一つとして語学に対するアレルギーがなくなったことがある。語学はあくまでもコミュニケーションのツールであって目標ではないし、別段大層な技術ではないといった雰囲気他国の生徒たちを見て、力みすぎず恥ずかしがらずにやっていくことの術を覚えた。例えばクラスでの授業の時、去年の私は自分から手を挙げて発言することはほとんどなかった。中国語が他生徒よりもできないことへの恥じらいと、発言した時に他のクラスメートに自分の中国語を見られているようで中々進まなかった。しかし春学期では恥じらいなく手を挙げていた自分がいた。それはもちろん中国語が上達したことからくる自信もあるがそれ以上に、片言なりに中国語を話すのが楽しかったし、単純に自分の意見を言いたいと思ったから。今までは出来ない中国語にばかり目が行って何もできなかった私が、春学期では自分の中国語は関係なしに語学を通り越して、授業での様々な話題について話し合いたい、他の人の意見が聞きたいと素直に思えるようになった。語学はあくまでもツールと思える感覚を学べたということはこういったことである。

2.2. 学修面での反省点ならびに留学志望者へ学修面のアドバイス (内容ごとに分けて記入)

留学マジックとはよく言ったもので、確かに行ってしまうと1, 2カ月の時を経て聞けるようになるものである。しかし、一つ言いたいことがある。授業に出る、最低限の復習こういった当たり前をやってこそその留学マジックだと。私も正直出国前に、その土地に住んでいるというだけで語学ができるようになるのではないかという感覚に陥っていたのだが、17年も上海に住んでいるという日本人男性の中国語が私とさほど大差がないのを見てきちんと学習しなければ上達はしないものなのだと改めて痛感した。彼は語学学校に通っておらず、自分の営む店の9割の顧客も日本人で、その私生活でも関わるのも日本人しかおらず上海にいながら中国語を話す機会が多くないためだという。これは当たり前のことのように見えて、きっと多くの人が勘違いしやすい感覚だと思う。

2.3. 留学生活で得られたもの (学修を除く、留学生活で得た成果)

留学生活の中で一番良かったものは、『外国人という地位』である。日本人だといって片言の中国語で話せば、どこに行っても可愛がられるし話は弾む。旅行などではなく中国語を学びに来ていることは言わずとも自動的に中国に興味があり、好んでいることの何よりもの証となる。それはどの国の子も話していて、誰もが感じている特権である。日本にいる日本語を話している外国人がいれば何だかうれしくなるように、彼らも私たち外国人にそう感じていたに違いない。特に中国人は自分たちでも言っているがとても情に熱い人が多い。何か困ったことがあれば誰かが助けてくれる。いつかの日になぜ中国に留学にしに来たのかと中国人にたずねられたことがあった。中国が好きなのではなく中国人が好きなのだとその時答えた。全くその通りで、同じアジア人とは思えないほど中国人の性格は私の性に合っているようだ。また『外国人の地位』には逆もある。私の言動にはすべて外国人のレッテルが張られている。そのため留学生は自分の国の代表のような感覚になる。きちんと外国人、日本人であることの自覚は多少必要だと思う。

2.4. 留学生活での反省点ならびに留学志望者へ生活面のアドバイス（内容ごとに項目を分けて記入）

私はひどいホームシックにはならなかった。中には学校に来なくなってしまう生徒もいたようだが、そうはならなかった秘訣がある。日本にいたころとなるべく変わらない生活を心がけることだ。留学だからと言って何でもかんでも積極的に参加しなくては、とプレッシャーを感じる必要は全くないと思う。自分に興味があれば参加すればいいし、気が乗らなければ参加しなくてもいいと思う。実際私も、楽しそうだからと韓国人の子たちと学校の庭でやるカンフーの授業に参加したこともあれば、授業外の任意のイベントの時間にケニアの友人とショッピングを楽しんでいたこともあった。意外と後者のほうがいい出会いに恵まれたりすることもある。ここには強制もなければ、プレッシャーもない。それに積極的と意気込まずとも語学の上達とともに、自然と意識せずいつの間にか積極的になっているものである。だから一人部屋で過ごす時間を留学しているのに何もしていないことと責め立てる必要もない。これが私のホームシックにならなかった由縁で、あなたは日本人らしからず、自分のペースを保っていていいねと言われたこともあった。留学だからといって自分のペースを崩す必要はない。

※作成できましたら国際センターまで、Feelnoteのプロジェクトよりご提出ください。

※ファイル名を、神奈川大学派遣交換留学修了報告書（派遣先大学・氏名）に変えてください。